

茨城 全研ニュース #9

認知症の人と家族への援助をすすめる
第35回全国研究集会 in 茨城

公益社団法人 認知症の人と家族の会 茨城県支部
事務局／〒300-1292 茨城県牛久市中央3丁目15-1
(牛久市保健センター隣)
TEL/FAX 029-828-8089
E-mail Alz2010ibaraki@yahoo.co.jp



茨城県開催の全国研究集会はいよいよ今月です。

暑さ寒さも彼岸までとはよく言ったもので、関東地方も朝夕冷え込むようになって来ました。9月は21日に恒例の「世界アルツハイマーデー」を迎え、茨城県でも水戸市とつくば市で、モールの入り口をお借りして、街頭行動が行われました。年を追う毎に手伝って下さる人が増え、有り難い限りです。また、ビラと絆創膏とポケットティッシュまたはウェットティッシュの入ったパンフ・セットの小袋をお勧めすると、ほとんどの方が避けずに貰って下さいました。東京医科歯科大学特任教授でメモリークリニック御茶ノ水院長の朝田隆先生をはじめ、多くの専門家が、テレビ、新聞、雑誌などで一般向けに認知症を解説する事が増えてきた効果でしょうか。全国民が認知症を正しく理解することが「つなぐ」の第一歩なのだと思わされた1日でした。朝田先生には家族の会茨城県支部の顧問をして頂いており、今年的全研で基調講演をして頂きます。

今回は専門家間の「つなぐ」とも言える医療連携に力を入れておられる、筑波大学附属病院精神科の新井哲明先生にお話しを伺いました。

Q. 認知症に対する国民の意識について伺います。

啓蒙が進んできているのでしょうか、認知症を知っている人は多くなって来たと思います。恐怖感が増している感もありま

世界アルツハイマーデーに茨城県水戸市では、水戸芸術館のタワーがオレンジ色にライトアップされました。



す。物忘れ外来でも、以前はアルツハイマーの患者が最も多かったのですが、今は MCI の人が増えています。MCI はデータ上は半数くらいは認知症に移行し、半数は改善する訳ですが、家族に迷惑を掛けたくないと言う人が多いようです。MCI の人には認知力アップデイケアをお勧めしています。様々なアクティビティを行うことで、楽しみながら多くの人が効果を上げています。しかし、まだまだこういう施設は少ないです。

Q. 医療他職種との連携は現在どのくらい取れているのでしょうか？

茨城県はその辺は結構進んでいる方で、精神科の中では認知症の連携は良いです。茨城県の認知症疾患医療センターは今基幹型の筑波大学病院を中心に 13 有って、お互い大変仲良くやっています。というのは、2015 年の関東東北豪雨の時以来結束が強いです。センターの役割に災害支援が書き込まれているのは茨城だけです。

文科省のプロジェクトで、「精神科の多職種連携に関わるメディカルスタッフの教育プログラム」が立ち上がり、認知症コース (PsySEPTA) と周産期コースがこの 10 月からスタートします。実は意外と、職種毎のノウハウとか考え方を互いに知らないんですよ。色々な場所で色々な多職種チームが既に有るのですが、在宅、施設、総合病院など現場によって違って来る。そこで、当プログラムでは見学実習を組み込んでいます。本当は診療の場にもケアマネや訪問ナースがいた方がいいのですが、今はまだなかなかそうもいきません。

Q. 一般住民の人たちの協力も必要になってくると思うのですが？

まずは認知症サポーターが協力して下さると有り難いです。長期的には学校教育など、子供の頃からもっと身近に知る機会を作る努力が必要だと思います。認知症はある意味老化の一環で、5 歳年を取る毎に倍々と増えてゆき、85 歳を過ぎれば半分以上は認知症になるわけですから、皆が行く道なので、「なったら怖い」ではなく「なっても大丈夫」という風にしていかなければなりません。

意識を変えるのも大事なのですが、もう一つは居場所や役割がある事。認知症カフェが増えてきたり、障害者雇用制度もありますが、まだこれからですね。

Q. ところで、認知症の仕組みがかなり分かってきているのに治せないのはなぜですか？

アルツハイマーの場合は原因物質として A β と τ がありますが、A β の方の役割がいまいち分かっていません。近年はアミロイド PET、 τ PET を駆使して発症前早期診断が可能です。病態修飾薬は、本当はこの時期が狙い目なんです。PET 無しでも微妙な行動変化から病気を読み取る早期診断が目下開発中です。

